

特集

# 都市部を目指す大学

ここ数年、都市部のキャンパス機能を強化したり、郊外から都市部に進出したりする大学の動きが活発化している。そしてその動きは今後も継続しそうだ。規制緩和によって、2002年には工場等制限法が廃止された。加えて、長引く不況の影響で企業等からまとまった土地が入手しやすくなっていることも背景にある。何より18歳人口の減少を見据えた立地戦略としての経営判断が大きい。Place（立地・流通）はマーケティングの視点から見れば、4P（Product, Price, Place, Promotion）の重要な要素の一つである。今回の特集では、そうしたキャンパスの新しい動きを整理するとともに、3大学の事例を通じて今後のキャンパス戦略についてレポートした。

## 活発化するキャンパス再配置と拡大戦略

1970年代から90年代にかけて、郊外型キャンパスを開設した大学の間で、2000年以降、都市部に回帰する動きが活発になっている。特に、郊外キャンパスから1・2年生を都市部に戻し、残ったキャンパスでは既存学部の新設や学部新設などを行い、キャンパスごとで4年間一貫教育とし、教育効果を上げようという動きが目立つ。もちろん、都市部に移転することによる志願者増も狙っていることだろう。

そこで1章では、首都圏における1都3県の入学定員・収容定員の推移を見ながら、学生数がどの程度動いているかを分析する。さらに、首都圏、中部圏、関西圏の3エリアで実際に行われた移転の動きを見ながら、その目的や傾向を探る。2章では、首都圏の5つの大学を例に、移転が志願者増に結びついているか、効果検証を行う。最後に3章では、今後行われる予定のキャンパス移転についてまとめた。（取材・文／本誌 能地）

### 1章

### 23区の入学生定員と収容定員がともに増加

#### 郊外キャンパスから1・2年生を戻す動きが増加

2002年に工場等制限法が撤廃されるまで、大学は首都圏・近畿圏の市街地や都市区域で、新たに教室の新設や増設を行うことが制限されていた。しかし、18歳人口の増加に伴い、1960年代後半を境に大学・短大進学率が急増、1970年代終わりには40%近くに達した。このチャンスに拡大路線を進めるには、郊外にキャンパスを作らざるを得なかったのだ。実際に多くの大学が、郊外のキャンパスに学部の新設や1・2年生の移転を行った。具体的には、1977年東洋大学（朝霞キャンパス）、1978年中央大学（多摩キャンパス）、1979年共立女子大学（八王子キャンパス）、1984年法政大学（多摩キャンパス）、1990年に慶應義塾大学（湘南藤沢キャン

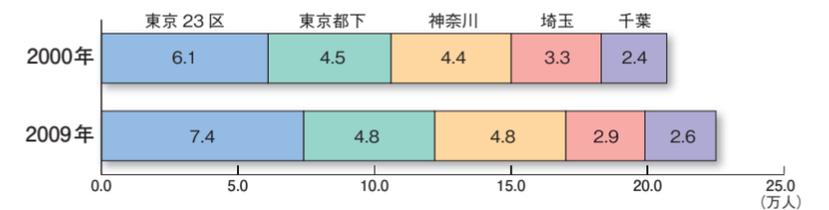
ス）などがそうだ。

しかし2005年、東洋大学が都心でアクセスの良い文京区の白山キャンパスに既存学部を集約したことで、志願者が増加し話題を集めた。その後も、2006年には共立女子大学、2007年には東京家政大学や立正大

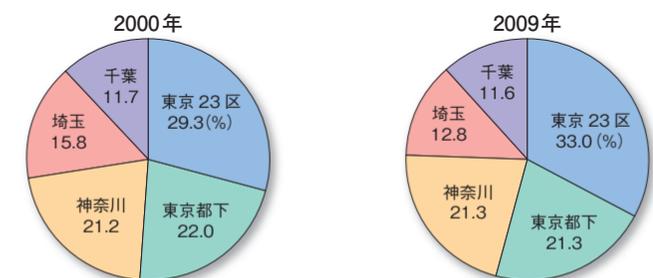
学が都心の本部キャンパスに集約化をはかるなど、郊外から都心への回帰が後を絶たない。

では実際に、首都圏（1都3県）の大学の入学定員と収容定員はどう変化しているだろうか。文教協会『全国大学一覽』を基に、「23区」「都下」

図表1 1都3県の入学定員



図表2 各エリアの入学生定員が首都圏全体に占める割合



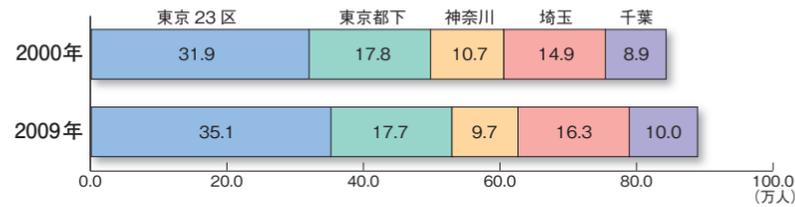
「神奈川県」「埼玉県」「千葉県」における、大学の学部(夜間主・二部含む)の入学定員と収容定員について、2000年と2009年を集計・比較してみた(図表1~4)。

図表1を見ていただきたい。これは、1都3県にキャンパスが所在する大学について、1年生が収容されるキャンパス所在地の入学定員を集計し、2000年と2009年を比較したものだ。

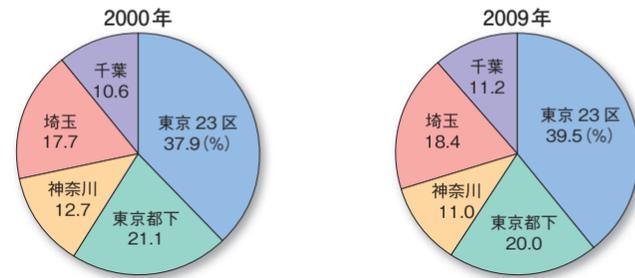
まず、23区は2000年の6.1万人から2009年の7.4万人へ1.3万人の増加、同じく都下は4.5万人から4.8万人へ3000人の増加、神奈川は4.4万人から4.8万人へ4000人の増加、埼玉は3.3万人から2.9万人へ4000人のマイナス、千葉は2.4万人から2.6万人と2000人増加した。23区が群を抜いて増加したものの、埼玉を除く他エリアも微増しているのはなぜか。文部科学省『学校基本調査』によると、2000年から2009年にかけて、1都3県の大学数は181校から220校へ、学部学生数は、99万7392人から103万4662人へ増加した。つまりこの9年間で39校、3万7270人増加したことが要因だと考えられる。

そこで今度は、1都3県の入学定員が首都圏全体に占める割合を示したのが図表2だ。これによると、23区では、2000年の29.3%から2009年の33.0%と、シェアは3.7%増加している。一方、他エリアは、都下(22.0%→21.3%)、神奈川(21.2%→21.3%)、埼玉(15.8%→12.8%)、千葉(11.7%→11.6%)と、神奈川を除くすべてのエリアで、シェアが減少している。これにより、郊外のキャンパスに1・2年生を移転した大学の

図表3 1都3県の収容定員(1~4年)合計



図表4 各エリアの収容定員が首都圏全体に占める割合



定員が、今度は都心に戻ってきていることがわかる。

次に、1都3県について、4学年を通算した収容定員の推移を見てみよう(図表3)。23区では2000年の31.9万人から2009年の35.1万人へと3.2万人の増加。都下は17.8万人から17.7万人と1000人の減少、神奈川は10.7万人から9.7万人と1万人減少した。一方、埼玉は14.9万人から16.3万人と1.4万人の増加、千葉は8.9万人から10万人と1.1万人の増加となっている。23区、埼玉、千葉で収容定員数が増加しているということだ。

一方、首都圏全体に占める割合でみると(図表4)、2000年から2009年にかけて、東京23区が1.6%増、東京都下は1.1%減、神奈川が1.7%減、埼玉が0.7%増、千葉が0.6%増だった。23区、埼玉、千葉で収容定員数、割合ともに増加していることがわかった。これは、冒頭にも触れたが、キャンパス移転を行った際に、残った既存の校地に学部・学科を新設し、そこで4年間一貫とするケースが多いためだと考えられ

る。次項以降で、具体的な動きをもそれがわかる。

**都市部へ回帰しつつも、拡大路線は継続か**

では、首都圏、中部圏、近畿圏で、2005年から2010年にキャンパス移転を行った大学について、主な動きをまとめてみた(図表5)。なお編集部では、移転のパターンを独自の定義により、①回帰型、②進出型、③機能分化型に分類。①回帰型は、もともと都市部にキャンパス(本部)をもっていた大学が、原点に回帰し学生等を移転・開設する型を指す。②進出型は新たに校地を取得し、キャンパスを新設・移転する型を指す。③機能分化型とは、新キャンパスと既存のキャンパスで、機能別の役割を持たせる型を指している。

これを見ると、首都圏を中心に非常に多くの移転が行われていることがわかる。また、1・2年、3・4年と、学年でキャンパスが分かれていることで授業等が分断され、戦略的かつ効率的

図表5 キャンパス移転一覧

大学名	パターン	実施年	旧・所在地	新・所在地	内容
明星大学	回帰型・機能分化型	2005	東京都青梅市	東京都日野市	青梅キャンパスの情報学部を日野キャンパスへ移転。2005年度に青梅キャンパスに造形芸術学部を開設。青梅キャンパスは2学部4学科から2学部2学科へ。
城西大学	進出型	2005	埼玉県坂戸市	東京都千代田区	法人で東京紀尾井町キャンパスを開設。城西国際大学の一部の学部は千葉東金キャンパスとの選択制とし、大学院(ビジネスデザイン研究科)も設置。2007年には2号棟を開設。
城西国際大学			千葉県東金市	千葉県鴨川市	安房キャンパスを開設し、観光学部を設置。
			千葉県千葉市	幕張キャンパス開設し、メディア学部の実習施設などに使用。	
東京芸術大学	進出型	2005	東京都台東区	神奈川県横浜市	みなとみらいに横浜キャンパスを開設、大学院の映画研究科映画専攻を設置。
			茨城県取手市	東京都足立区	足立区に千住キャンパスを開設、音楽学部の音楽環境創造科を取手キャンパスから千住へ移転。
東洋大学	回帰型・機能分化型	2005	埼玉県朝霞市	東京都文京区	2005年に朝霞キャンパスの既存学部を全て白山へ。残る朝霞にはライフデザイン学部を新設。
	回帰型	2006	東京都文京区	東京都文京区	白山第2キャンパスを開設、法科大学院の校舎や研究施設として利用。
	回帰型・機能分化型	2009	群馬県板倉町	東京都文京区	板倉キャンパスの国際地域学部を白山第2キャンパスに移転。板倉キャンパスに残る生命科学部には生命科学科に加え、応用生物科学科、食環境科学科の2学科を増設。
	機能分化型	2010	埼玉県川越市	埼玉県川越市	2009年4月に工学部を理工学部へ再編、総合情報学部の設置に伴い、川越キャンパスをリニューアルし新棟を建設。
共立女子大学	回帰型	2006	東京都八王子市	東京都千代田区	八王子キャンパスだった家政学部と文芸学部の1・2年、国際化学部を、2006年より神田一ツ橋キャンパスへ全面移転。
工学院大学	回帰型	2006	東京都八王子市	東京都新宿区	新宿キャンパスに情報学部(1~4年)を新設。
上智大学	回帰型	2006	東京都新宿区	東京都新宿区	2006年9月に市ヶ谷キャンパスの比較文化学部を、国際教養学部へ改組し四谷キャンパスへ移転。
芝浦工業大学	進出型・機能分化型	2006	東京都港区・埼玉県さいたま市	東京都江東区	豊洲キャンパス開設。芝浦・大宮キャンパスに分散していたものを大宮と豊洲の2キャンパス体制に。芝浦キャンパスは大学、オフィス、ホテルが一体となった「芝浦ルネサイト」に利用。
	機能分化型	2009	東京都江東区	東京都港区	芝浦ルネサイトを開設。新キャンパスには新設のデザイン工学部等を設置。
大正大学	回帰型	2006	東京都千代田区	東京都豊島区	2006年1月末より、一部授業に使用していた神田校舎を廃し、全学生を巣鴨校舎へ集約。
法政大学	回帰型	2006	東京都千代田区	東京都千代田区	市ヶ谷キャンパスを拡張し、富士見坂校舎、新一口坂校舎(経営大学院・会計大学院)として使用開始。
		2007	東京都小金井市	東京都千代田区	小金井キャンパスの工学部3学科(建築学科、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科)を改組し、市ヶ谷キャンパスにデザイン工学部を新設。市ヶ谷に外濠校舎竣工。
		2008	東京都千代田区・東京都小金井市	東京都千代田区・東京都小金井市	市ヶ谷キャンパスの市ヶ谷町校舎を竣工し、デザイン工学部を収容。小金井キャンパスの工学部を理工学部、生命科学部に改組、小金井に東館竣工。
	機能分化型	2009	東京都町田市	東京都町田市	多摩キャンパスにスポーツ健康学部を設置し、スポーツ健康学部棟を竣工。
上野学園大学	回帰型	2007	埼玉県草加市	東京都台東区	2004年に音楽・文化学部を開設し、草加キャンパスから上野キャンパスに全面移転。2007年には上野に15階建の新校舎を建設し、大学機能を集約化。
昭和音楽大学	進出型	2007	神奈川県厚木市	神奈川県川崎市	厚木キャンパスから新百合ヶ丘キャンパスへ全面移転。
東海大学	回帰型	2007	東京都渋谷区	東京都港区	既存校舎のある高輪キャンパスに専門職大学院を設置。2008年には情報通信学部を開設。
東京家政大学	回帰型	2007	埼玉県狭山市	東京都板橋区	家政学部の1・2年を狭山キャンパスから板橋キャンパスへ移転し、全学年を板橋に集約。
			埼玉県狭山市	東京都板橋区	板橋校地を拡張し人文学部を移転。全学部を板橋キャンパスに集約。
東洋学園大学	回帰型	2007	千葉県流山市	東京都文京区	人文学部、経営学部の3・4年を、流山キャンパスから本郷キャンパスに移転。
立正大学	回帰型	2007	埼玉県熊谷市	東京都品川区	熊谷キャンパスの経済・経営学部1・2年を2002年より大崎キャンパスへ移転。文学部は2006年度、仏教学部は2007年度の入学より、大崎キャンパスで一貫教育。
跡見学園女子大学	回帰型	2008	埼玉県新座市	東京都文京区	短大閉学の跡地に、既存学部の3・4年が移転。
国士舘大学	回帰型・機能分化型	2008	東京都世田谷区	東京都世田谷区	創立100周年記念事業として、鶴川キャンパスの政経・法・文学部1・2年を世田谷キャンパスに集約、4学年一貫教育に。町田キャンパス(2009年に鶴川キャンパスから名称変更)には、21世紀アジア学部を収容。
帝京平成大学	進出型	2008	千葉県市原市	東京都豊島区	池袋キャンパス開設。市原キャンパスから、健康メディカル学部、現代ライフ学部、ヒューマンケア学部の大半が移転。
			2010	東京都豊島区	千葉県幕張市
杏林大学	回帰型	2009	東京都八王子市	東京都三鷹市	2009年、保健学部看護学科のみ八王子から三鷹に移転。
日本大学	回帰型	2009	埼玉県さいたま市	東京都千代田区	法律学科を除く、法学部(1・2年)を大宮キャンパスから三崎町キャンパスへ移転し、全学年を三崎町へ集約。
國學院大学	回帰型	2010	神奈川県横浜市	東京都渋谷区	創立120周年を機に、渋谷キャンパスを再開発。文学部、経済学部、法学部、神道文化学部の1年を横浜たまプラーザキャンパスから、渋谷キャンパスに移転し4学年一貫教育。2009年に新設した人間開発学部のみ、たまプラーザに残る。

	大学名	パターン	実施年	旧・所在地	新・所在地	内容
首都圏	女子美術大学	回帰型	2010	神奈川県相模原市	東京都杉並区	芸術学部を3学科に改組し、そのうちのアート・表現学科を杉並キャンパスに移転。
	帝京科学大学	進出型	2010	山梨県上野原市	東京都足立区・山梨県山梨市	千住キャンパスを開設し、上野原キャンパスから生命環境学部を移転。医療科学部に東京理学療法学科、東京柔道整復学科を新設。こども学部児童教育学科を新設。山梨市キャンパスを新設し、上野原から医療科学部柔道整復学科を移転。
	東京工科大学	進出型	2010	東京都八王子市	東京都大田区	蒲田キャンパスを開設し、デザイン学部と医療保健学部を新設。八王子キャンパスの3学部(応用生物学部、コンピュータサイエンス学部、メディア学部)と合わせた総合大学を目指す。
	東京理科大学	進出型	2010	東京都新宿区	東京都千代田区	「125周年記念事業」計画により、神楽坂キャンパスと野田キャンパスの再構築事業を進める中、工学系のほとんどの学部を一時的に九段校舎に移転。
	二松学舎大学	回帰型	2010	千葉県柏市	東京都千代田区	「130周年記念事業」により、既存学部(文学部・国際政治経済学部)の1・2年は柏キャンパスだったものを、2010年度生から柏か九段のキャンパス選択制にし、九段への大学機能集約計画が進行中。
中部圏	常葉学園大学	回帰型	2005	静岡県菊川市	静岡県静岡市	2つのキャンパスを往復する学生の負担を軽減するために、菊川キャンパスの造形学部を静岡キャンパスに移転し、全3学部を集約。
	中部学院大学	進出型	2006	岐阜県関市	岐阜県各務原市	各務原キャンパスを開設し、人間福祉学部子ども福祉学科を新設。2007年に子ども学部子ども学科、2008年に経営学部経営学科を新設。
	名古屋学院大学	回帰型	2007	愛知県瀬戸市	愛知県名古屋市	大学創設の地、熱田区に再び名古屋キャンパスを開設。瀬戸キャンパスから、白鳥舎に経済・商・外国語の3学部、日比野学舎に大学院研究室、本部機能を移転。瀬戸キャンパスには人間科学部のみ残した。
	愛知工業大学	回帰型	2010	愛知県豊田市	愛知県名古屋市	大学創設の地、名古屋千種区に自由が丘キャンパスを新設し、本部のある八草キャンパスから、経営学部の経営情報システム専攻、ビジネスマネジメント専攻の2専攻を移転。
	順天堂大学	進出型	2010	東京都文京区	静岡県三島市	三島キャンパスに保健看護学部を新設。
	関西圏	立命館大学	進出型	2006	京都府京都市	京都府京都市
神戸女子大学		進出型	2006	兵庫県神戸市	兵庫県神戸市	神戸ポートアイランド(人工島)の既存の短大敷地内にポートアイランドキャンパスを開設し、健康福祉学部を新設。
神戸学院大学		進出型・機能分化型	2007	兵庫県神戸市	兵庫県神戸市	神戸ポートアイランドにポートアイランドキャンパスを開設。有瀬キャンパスから7学部のうち、法学・経済・経営学部の3・4年、2～6年を移転。
平安女学院大学		回帰型・機能分化型	2007	大阪府高槻市	京都府京都市	系列中学校の跡地に国際観光学部を新設。高槻には生活福祉学部を開設。
同志社大学		進出型	2008	京都府上京区	京都府木津川市	学研都市キャンパスを開設し、医工連携を含む新たな理工系研究施設として利用。
同志社大学		回帰型	2009	京都府京田辺市	京都府京都市	神学部と社会学部の2学部を京田辺キャンパスから今出川キャンパスに移転。
鈴鹿医療科学大学		進出型	2008	三重県鈴鹿市	三重県鈴鹿市	薬学部新設に際して白子キャンパスを開設。
甲南大学		進出型	2009	兵庫県神戸市	兵庫県西宮市	阪急西宮スタジアム跡地に隣接する場所に、西宮キャンパス「甲南CUBE」を開設。マネジメント創造学部を新設。
甲南大学		進出型	2009	兵庫県神戸市	兵庫県神戸市	神戸ポートアイランドに甲南大学ポートアイランドキャンパスを開設し、フロンティアサイエンス学部を新設。
同志社女子大学		回帰型	2009	京都府京田辺市	京都府京都市	学芸学部の英語英文学科、日本語日本文学科を、京田辺キャンパスから今出川キャンパスに移転。
関西国際大学		回帰型・機能分化型	2009	兵庫県三木市	兵庫県尼崎市	法人発祥の地であるJR尼崎駅北口一帯の「あまがさき緑遊新都心」に尼崎キャンパスを開設し、教育学部を新設。
関西大学		進出型・機能分化型	2010	大阪府吹田市	大阪府高槻市	新しい一貫教育を実施する場として、JR高槻駅前に「高槻ミュージックキャンパス」を開設。社会安全学部および大学院社会安全研究科と、関西大学高等部・中等部・初等部を新設。
関西大学	進出型・機能分化型	2010	大阪府吹田市	大阪府堺市	社会貢献機能を推進するための新キャンパス「堺キャンパス」を開設。人間健康学部を新設し、将来的には大学院を併設する計画。	

・2005-2010年のキャンパス新設、移転等を抜粋掲載。  
 ・国土交通省「平成20年度大学等高等教育機関と地域の連携に関する実態調査」を基に編集部作成。

教育が行えないというデメリットを踏まえ、学部ごとに1~4年生を集約するケースが多いようだ。

エリア別には、首都圏は、上野学園大学、共立女子大学、大正大学、東京家政大学、二松学舎大学などが、大学機能などを都心に全面回帰。一方、城西国際大学、芝浦工業大学、帝京平成大学、東京工科大学などは、進出型による学部等の新設と機能別分化で拡

大路線を進める。東洋大学、法政大学、国士舘大学は、本部周辺地を取得して拡張を図りつつ、機能別分化を同時進行している。

中部圏では、常葉学園大学が本部に学生を集約化、名古屋学院大学と愛知工業大学が創設の地に回帰した。

関西圏では、同志社女子大学が回帰し、平安女学院大学、同志社大学、関西国際大学などは、創設の地に回帰し

つつ、機能分化で拡大を進める。また、神戸女子大学、神戸学院大学、甲南大学が、神戸市の行政・産業の集積地という立地メリットを生かし、神戸ポートアイランドに新キャンパスを開設。ポートアイランドには新設大学も多くなってきている。関西大学も進出型で、新設するキャンパスに一貫教育や社会貢献機能など明確な拠点機能をもたせながら拡大をはかる。

## 2章 移転した学部で志願者増の傾向

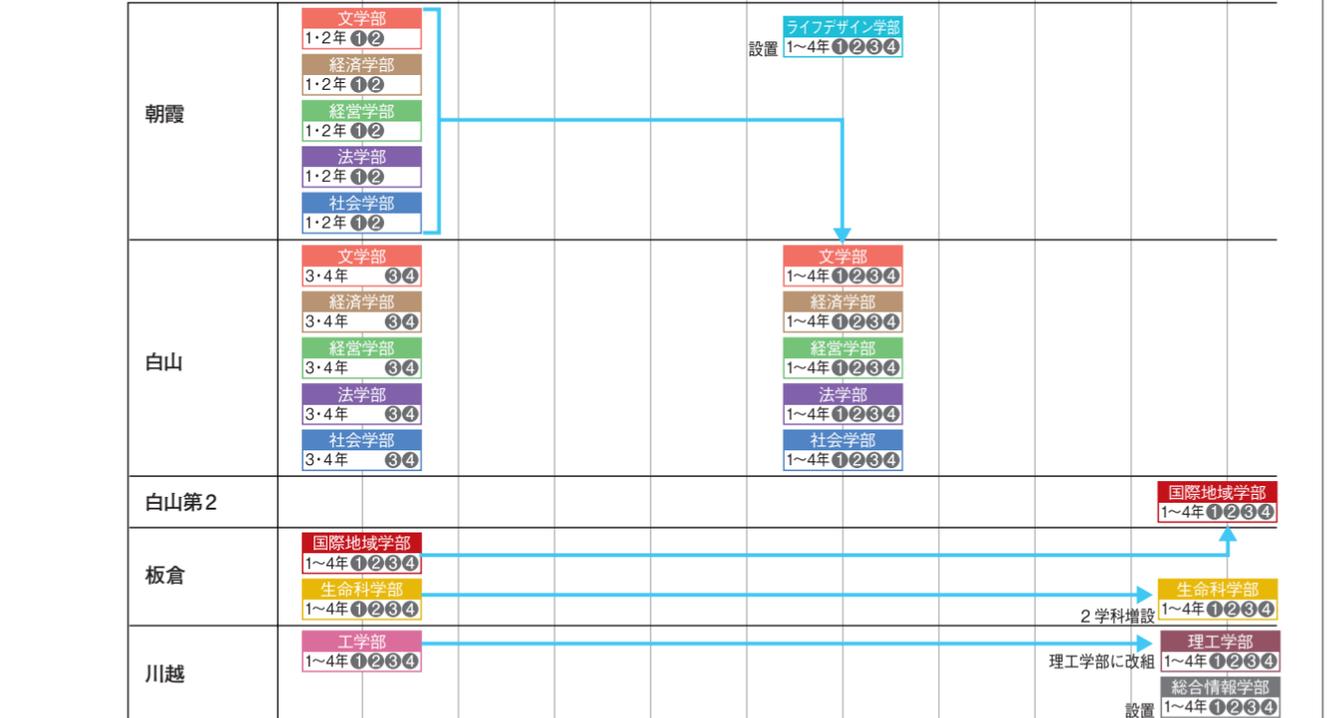
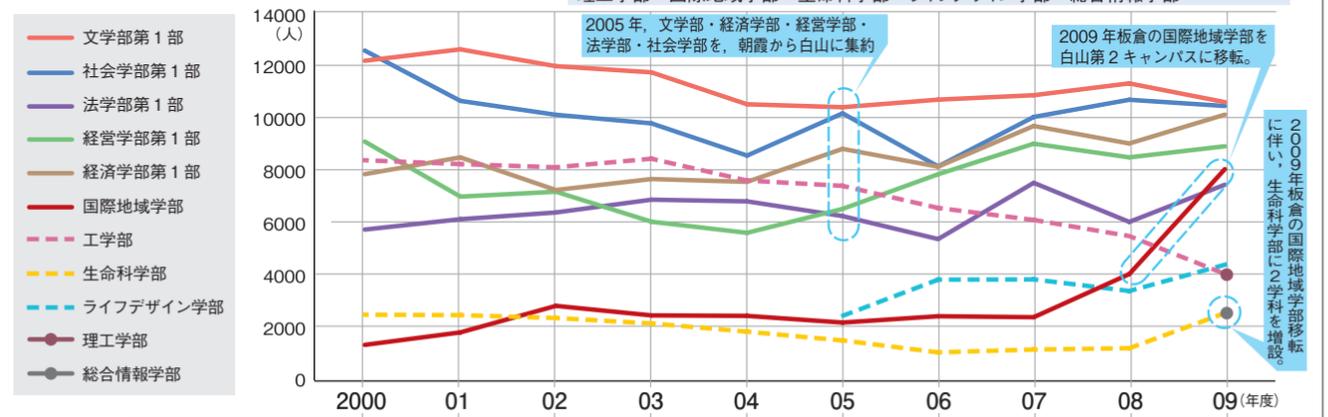
多くの大学が都市部を目指すのはなぜか。18歳人口の減少で学生募集に苦しむ大学にとって、最大のメリットはやはり志願者増だろう。学生と教職員ともにアクセスの良い都市型キャンパスは、実務家教員等の確保や、就職活動にも利便性が高い。デメリットと

しては校地の狭さがあるが、本部キャンパスの再開発や高層化などで、効率性を高めたキャンパス再配置が行われているようだ。

ここでは、首都圏で実際に都心へキャンパス移転を行った東洋大学、共立女子大学、東京家政大学、立正大学、

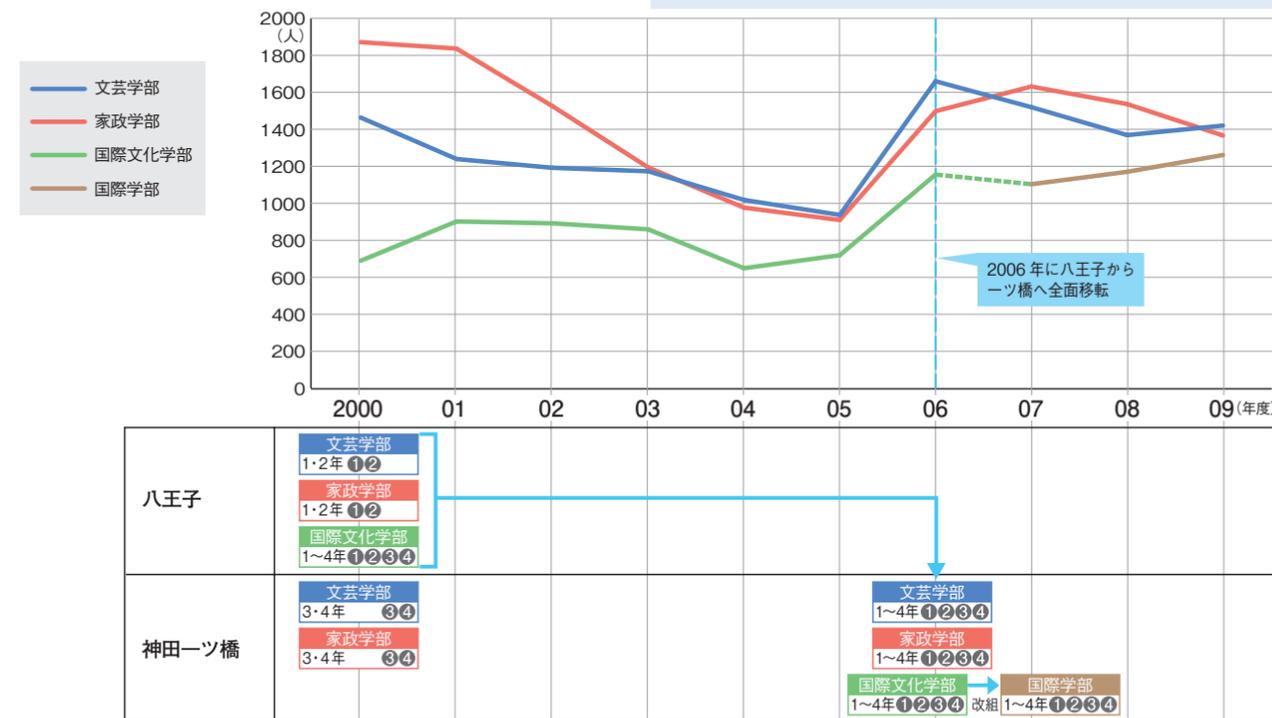
国士舘大学の5つの大学を例に、移転が志願者増につながっているか、効果を検証してみたい。図表6~11のグラフは、リクルート『入試実態調査』(2000年~2009年)をもとに、それぞれキャンパスを移転した学部の志願者数を実線、そうでない学部の志願者数を破線

図表6 東洋大学 志願者数推移(2000-2009年度) 法学部第1・2部 経済学部第1・2部 社会学部第1・2部 文学部第1・2部 経営学部第1・2部 理工学部 国際地域学部 生命科学部 ライフデザイン学部 総合情報学部



※キャンパス移転のあった学部を実線、それ以外の学部を破線とした(以下同)。 ※各学部第2部については、ここでは割愛した。

図表7 共立女子大学 志願者数推移 (2000—2009年度)



で表し、志願者数の推移を示したものだ。

●東洋大学

東洋大学は、1887年に前身の私立哲学館を本郷区に創設。1897年に小石川区(現在の白山キャンパス)に移転後、1928年に大学令により東洋大学設置。1949年に新制大学として東洋大学・文学部を設置し、次いで経済学部、法経学部、法学部、社会学部を設置していった。1961年には「川越キャンパス」(埼玉)を開設し工学部を設置。1977年には「朝霞キャンパス」(埼玉)を開設し、工学部と2部を除く全学部の1・2年生を移転した。1997年には「板倉キャンパス」(群馬)を開設し、国際地域学部・生命科学部を設置。2006年に「白山第2キャンパス」を開設し、現在の5キャンパス体制となった(サテライト除く、以下同)。

2005年に、朝霞キャンパスに移転していた文系5学部(文学部、経済学部、

経営学部、法学部、社会学部の第1部、以下同)の1・2年生を白山キャンパスに集約し、4年間一貫教育をスタート(図表6)。これにより、2004年まで志願者数の減少が続いていた経営学部と社会学部は志願者数が増加、同じく横ばいだった経済学部も志願者数が増加した。文学部と法学部の志願者数は上がらなかったが、法学部は2009年まで増加傾向にある。また、2004年と2009年の志願倍率<sup>\*</sup>をそれぞれ比較すると、文学部(14.6倍→13.8倍)、経済学部(13.6倍→17.6倍)、経営学部(10.9倍→13.3倍)、法学部(13.6倍→14.9倍)、社会学部(15.5倍→19.0倍)と、文学部を除く全学部で倍率は上がっている。なおこの集約化に伴い、朝霞キャンパスにはライフデザイン学部を新設している。

2009年4月には、学部教育の「5つの改革」をスタート。国際地域学部を板

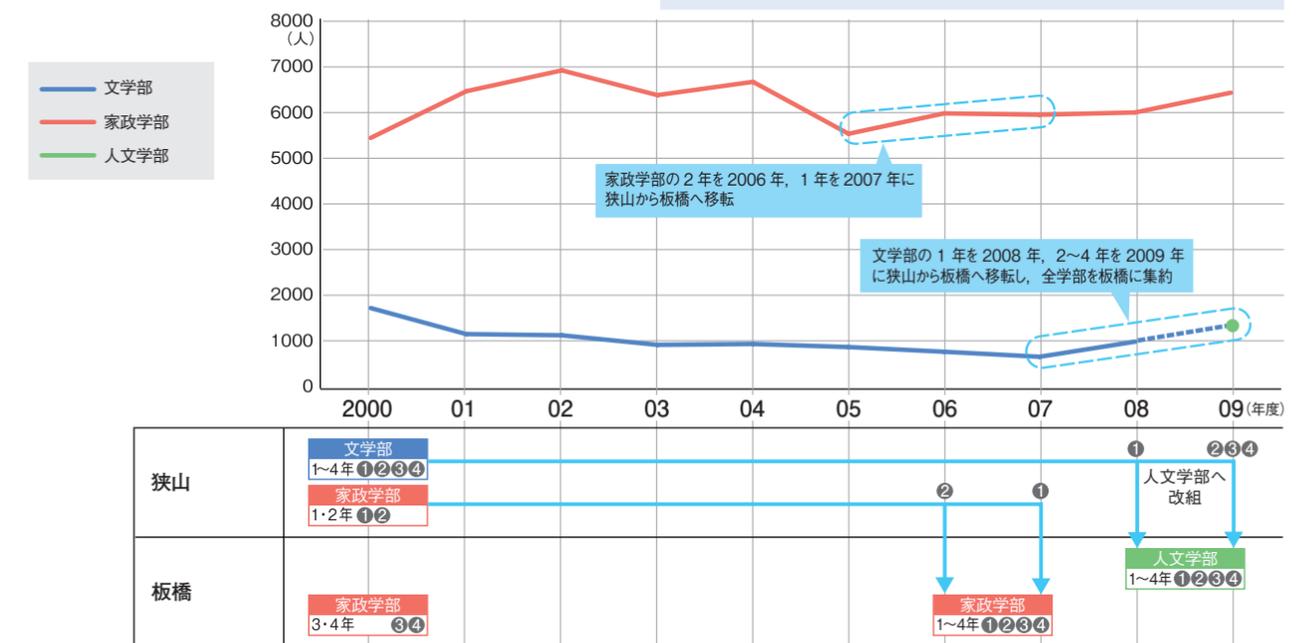
倉キャンパスから白山第2キャンパスに移転し、志願者数が約4000人から約8000人へと一気に倍増、志願倍率は10.5倍から21.1倍にも上がった。

キャンパスの移転を行った学部(実線)とそうでない学部(破線)を見ると、移転を行った学部のほうが、志願者数を伸ばしている傾向がよくわかる。移転を行わずに志願者数が増えているライフデザイン学部と生命科学部については、「5つの改革」でライフデザイン学部を2専攻に、生命科学部に2学科を増設し3学科体制とするなど、学部・学科改編の効果による志願者増であることが推測される。

●共立女子大学

次に共立女子大学を見てみよう。1886年に前身の共立女子職業学校を本郷に創設、翌1887年に現在の神田一ツ橋に移転した。1949年に新制大学として共立女子大学・家政学部を設

図表8 東京家政大学 志願者数推移 (2000—2009年度)



置、のちに文芸学部を設置している。1979年に八王子キャンパスを開設し、家政学部と文芸学部の1・2年生を移転。2学部3・4年生は神田一ツ橋キャンパスで学ぶ、2キャンパス体制となった。さらに1990年には八王子キャンパスに国際文化学部を設置している。

図表7のとおり、2000年ごろから、家政学部、文芸学部ともに志願者数が減少。2006年に、学園の将来構想として、大学・短期大学の全学生を学園の原点でもある神田一ツ橋キャンパスに集約し、都心型の新しい教育・研究を展開する、キャンパス集中化計画をスタートした。神田一ツ橋の再構築を進め、地上15階建の本館が完成。八王子キャンパスの全学生を神田一ツ橋キャンパスに集約した。これにより、家政学部、文芸学部の志願者数は、2006年に一気に増加し、V字回復に。国際文化学部についても、過去最高の志願者数となったほか、2007年には国

際学部へ改組し、堅調に志願者数を伸ばしている。移転前の2005年と2009年の志願倍率を比較しても、文芸学部(2.7倍→7.1倍)、家政学部(3.3倍→5.6倍)、国際学部(3.2倍→7.6倍)と全学部で倍率を上げている。

●東京家政大学

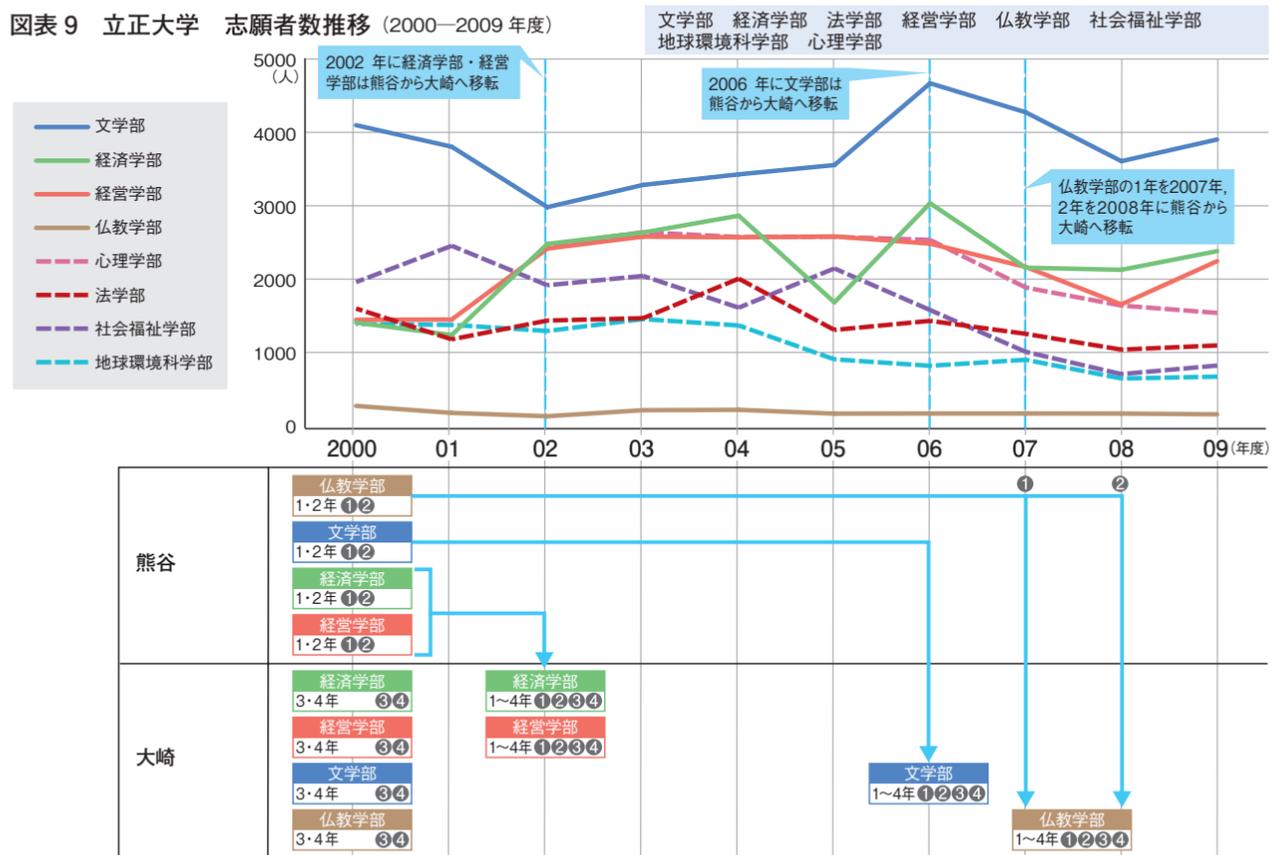
東京家政大学は、1881年に、前身の和洋裁縫伝習所を本郷に創設、1946年に新校地(現在の板橋キャンパス)に移転した。1949年に東京家政大学・家政学部設置。1986年に狭山キャンパスを開設し、文学部を設置するとともに、家政学部の1・2年生を狭山キャンパスに移転した。

2006年に家政学部の2年生を、翌2007年には1年生を狭山から板橋へ戻したことで、家政学部は板橋で4年間一貫で学ぶことになった(図表8)。2008年には文学部の1年生を狭山から板橋に移転、2009年に板橋校地の

拡張を行い、文学部の2~4年生も板橋に移転。全学部の板橋キャンパス集約が完了した。さらに、改組と名称変更により家政学部に児童教育学科と環境教育学科を設置。文学部を人文学部に名称変更し、英語コミュニケーション学科、心理カウンセリング学科、教育福祉学科を設置している。

まず家政学部だが、2006年に2年生、2007年に1年生と段階的に狭山から板橋へ移転したことで、志願者数は増加、横ばいののち、2009年まで増加傾向にある。志願倍率はというと、2000~2004年まで平均倍率9.1倍で推移していたのが、2005年には9倍を割り込んだ。しかし2006年の移転を機に上昇しはじめ、板橋に集約した2007年には10.5倍、2009年は11倍になった。一方、文学部は、2000年に約1700人いた志願者数が徐々に減り始め、2003年には1000人を割り込み、2007年には約650人になった。しかし、2008年に

図表9 立正大学 志願者数推移 (2000—2009年度)



※仏教学部、文学部、経済学部、経営学部については、2000-2002年の昼間主・フィックスコースの志願者数を使用。  
 ※大崎キャンパスの心理学部、熊谷キャンパスの法学部、社会福祉学部、地球環境科学部は移転がないため、一部割愛。

移転が始まると志願者数も増加、2009年の人文学部への改称も後押しになり、約1400人まで回復している。志願倍率では、2000年に6.4倍となったあとは、平均倍率4.4倍で推移していたが、板橋に移転した2008年には7.2倍、2009年には7.3倍に上がってきている。

●立正大学

立正大学は、1580年に前身の飯高檀林を千葉県に創立、1904年に大崎キャンパスを開設した。1924年には大学令により立正大学文学部を設置。1949年に新制大学となり、仏教学部、文学部、経済学部、経営学部を設置してきた。1967年には熊谷キャンパスを開設し、教養部を開設、大崎と熊谷の2キャンパス体制とした。教養部が廃止されたのちも、既存学部の1・2年生は熊谷、3・4年生は大崎

で学ぶことになる。その後、熊谷に法学部、社会福祉学部、地球環境学部を設置し、大崎に心理学部を設置した。

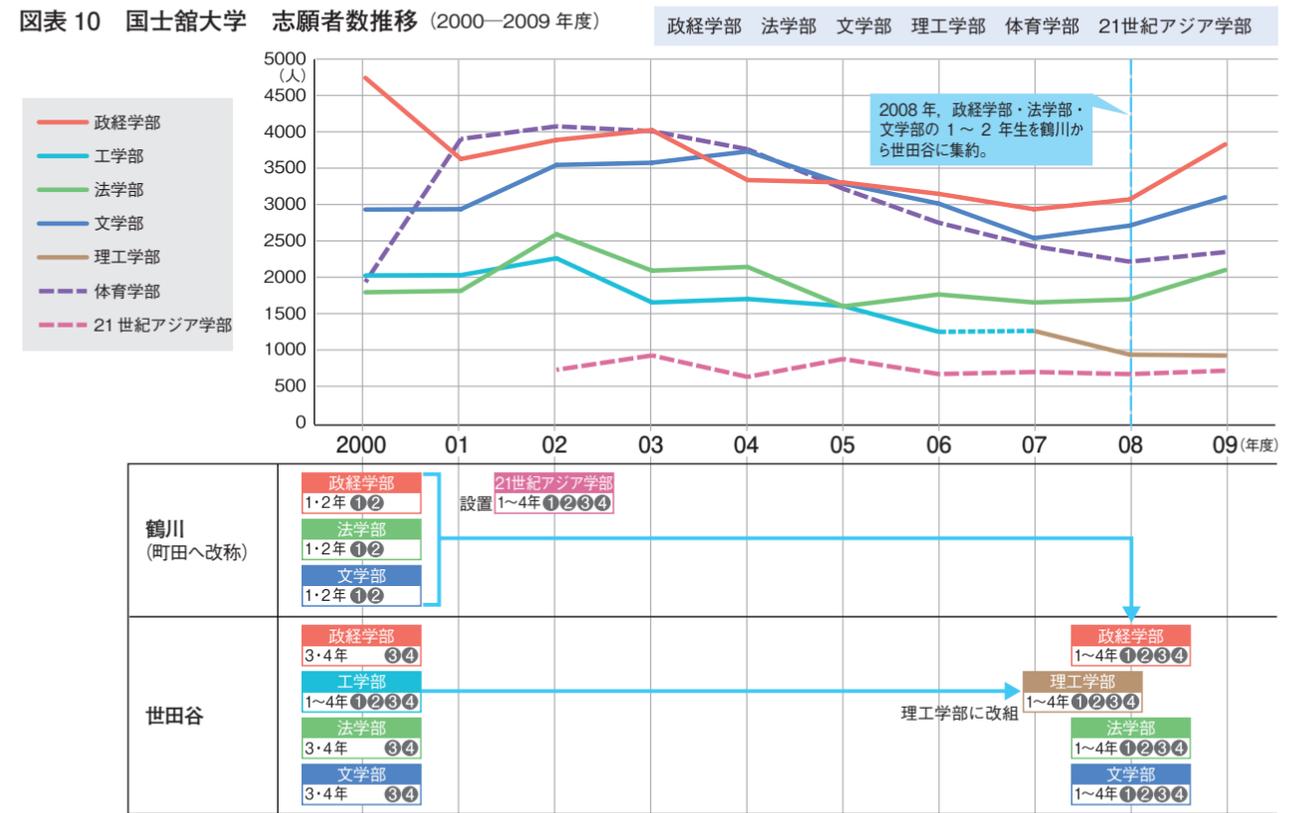
2002年には経済・経営学部の1・2年生を熊谷から大崎に戻した。さらに大崎と熊谷に分かれている学部を大崎での4年間一貫教育とするため、2006年に文学部の1・2年生を、2007～2008年に仏教学部の1・2年生をそれぞれ大崎へ集約。これにより、法・社会福祉・地球環境学部は熊谷で、それ以外の既存学部は大崎で4年間一貫教育を行う、棲み分け体制が整った。

まず2002年に他に先がけて大崎へ集約した経済学部と経営学部だが、どちらも2001年まで1500人に満たなかった志願者数が、2002年には一気に約1000人増加し約2500人に。その後、

経済学部は2005年、経営学部は2008年を除き、2000人を上回る志願者数を維持している。志願倍率で見ても、経済学部は2001年の4.6倍から2002年に9.3倍となり、2003～2009年の平均倍率は6.6倍で推移。経営学部も2001年の5.3倍から2002年には9.1倍となり、2003～2009年の平均倍率は7.5倍と高倍率を維持している。

次に文学部だが、2000年には4000人を上回っていた志願者数も徐々に減少し、2002～2005年は3000～3500人で推移していた。2006年に大崎へ集約してからは志願者が約4700人に回復。その後減少したものの、2009年は約4000人となっている。志願倍率では、2005年の7.1倍から2006年には9.2倍となり、2007～2009年の平均倍率

図表10 国士館大学 志願者数推移 (2000—2009年度)



※多摩キャンパスの体育学部は一部割愛。

は7.7倍である。

ちなみに仏教学部については、移転前と移転後で志願者・志願倍率ともに大きな変動はなかった。

折れ線グラフを見ても、やはり移転を行った学部は志願者増のトレンドにあるようだ。

●国士館大学

国士館大学は、1917年に前身の私塾「國士館」を麻布に創設。1919年に現在の世田谷キャンパスへ移転。1958年に国士館大学・体育学部を設置した。その後、政経学部、工学部(2007年から理工学部)、法学部、文学部を設置。1966年に鶴川キャンパスを開設し、政経・法・文学部の1・2年生と、文学部教育学科初等教育専攻の1～4年生を移転した。1992年には多摩キャンパスを開設し、体育学部を移

転している。2002年には鶴川に21世紀アジア学部を設置した。

2017年の創立100周年に向け、記念事業として、世田谷の本部キャンパスに隣接する都立高校の跡地を取得し、2008年に世田谷キャンパス梅ヶ丘校舎を新設。鶴川で学んでいた政経・法・文学部の1・2年生(初等教育専攻の1～4年生含む)を世田谷に戻し、理工学部を加えた4学部について、世田谷キャンパスで4年間一貫教育とする体制を整えた。2009年には鶴川キャンパスを町田キャンパスに名称変更している。

それでは、世田谷に集約された3学部の志願者の動きを見ていこう。2000年には約4700人いた政経学部の志願者数も2007年には3000人を割り込むまでに減少。しかし、世田谷

に戻った2008年から志願者が戻り始め、2009年には約3800人に増加した。2004年の約3700人をピークに志願者数が下がり続けていた文学部と、2005年以降は横ばいだった法学部とともに、移転後は志願者増に転じている。3学部の2007年と2009年の志願倍率を見ると、政経学部(4.4倍→5.5倍)、文学部(6.9倍→7.9倍)、法学部(4.4倍→5.3倍)と上昇傾向にある。

ここでも、折れ線グラフは移転を行った学部はそうでない学部と比べ、志願者増のトレンドを示している。

受験生にとって、その大学や学部がどこに立地しているかは選択の重要な要素であり、立地条件の良い学部は志願者も集めやすいことが、結果として表れたといえよう。

3章

キャンパス戦略は今後も継続

最後に、今後キャンパスの移転を予定している大学について、首都圏、中部圏、関西圏の主な動きを見てみる。

武蔵野大学は、本部の武蔵野キャンパスに加え、2012年、有明キャンパスを開設する。“もっとも適したエリアで学ぶ”という考えから、ビジネスや国際感覚を身近に感じられる臨海副都心の有明に、文学部英語・英米文学科、政治経済学部政治経済学科、人間関係学部人間関係学科を移転。武蔵野にはそれ以外の学部・学科を配置する。さらに有明開設を機にカリキュラム改革を行い、2012年には全学部の1年生が学部学科の壁を越えて武蔵野で学ぶ「武蔵野BASIS」をスタートさせる。武蔵野大生としてのアイデンティティを確立し、“武蔵野学士力”を育むベースとするのが狙いだ。

次に、現在、東京神田キャンパス、埼玉鳩山キャンパス、千葉ニュータウンキャンパスの3キャンパス体制の東京電機大学が、2012年4月に、学園創立100周年記念事業として、足立区北千住駅東口の新社地に進出することを決定した。新たに「東京千住キャンパス」を開設し、神田の機能を移転する。神田キャンパスに比べ、約2.5倍の敷地面積となることから、理工系大学に不可欠な最先端設備とコミュニケーション空間を生かした中核拠点と位置づけるといふ。

東京歯科大学は、千葉キャンパスと、法人事務局や水道橋病院を置く水道橋TDCビルの2キャンパス体制

を敷く。創立120周年に向け、2つのキャンパスの将来構想を考えた結果、キャンパスの集約化によるコスト減や、大学の本部機能の集中、都心キャンパスの優位性と効果などから、建学の地の水道橋へ全面回帰することを決定した。千葉には千葉診療所(仮)を設置するための用地を残すのみとする。

2012年、中野駅前の警察大学校等跡地に中野キャンパスを新設するのが早稲田大学だ。中野駅前開発事業の一環で、同じく2013年には帝京平成大学が薬学部を移転、明治大学もキャンパスを開設する予定だ。早稲田大学は、「交流から生まれる『知』をまちへ提供。誰もが立ち寄れる地域に開かれたキャンパスづくり」をコンセプトに、「国際コミュニティプラザ(仮称)」を建設予定。早稲田エクステンションセンター等の生涯教育の授業や、日本人学生と留学生が共生する定員900人規模の学生寮として使用する。一方、明治大学は、駿河台、和泉、生田、新設する中野の4キャンパスについて、10年後のあるべき姿を示したランドデザインを策定。なかでも、中野を「国際化、先端研究、社会連携の拠点キャンパス」、和泉を「教養教育と初年次教育の拠点キャンパス」とし、中野には、和泉から国際日本学部を移転。残る和泉には、全学部の1年生が学ぶ教養系学部を新設する。さらに中野に、情報化社会の新たなニーズに対応する人材を育成する、新学部の設置を構想中だ。

東京理科大学は、本部である神楽坂キャンパスの校地・校舎が手狭になったことから、2013年に葛飾区に進出、新たに「葛飾キャンパス」を開設する。神楽坂から理学部第一部と工学部第一・二部の一部学科、基礎工学部を移転し、工学系分野の研究者を集め、充実した設備で先端融合分野を研究する。神楽坂を“都市型キャンパス”、葛飾を“学園パーク型キャンパス”、千葉の野田を“リサーチパーク型キャンパス”と位置づけ、それぞれ再整備を進めながら、3キャンパスのメリットを生かした連携をはかっていく。

渋谷に回帰との報道が目立った実践女子大学。大学の本部は現在日野キャンパスにあるが、学園本部と中学校高等学校のある渋谷にキャンパスを開設。渋谷を「都市型キャンパス」、日野を「地域密着型キャンパス」と位置づけ、2拠点化する。学部・学科の教育目的や人材育成に合った教育環境を整備するのが目的で、文化・芸術・経済活動等が教育材料である文系学部を都心に配置するのは必然的と同大はコメントする。同時に、充実した実験設備により、生活科学・家政系学部の教育を行うのが日野としている。

大阪成蹊大学は、2002年に成安造形短期大学を傘下におさめ、長岡京キャンパスの芸術学部へ改組。2012年にこれを本部の相川キャンパスに移転する。相川キャンパスは、系列の女子高等学校、短期大学のある学園発祥の地。全ての学部を相川に集約

図表 12 今後予定されているキャンパスの移転や再配置の例

	大学名	パターン	実施年	旧・所在地	新・所在地	内容
首都圏	東京家政学院大学	回帰型・機能分化型	2011	東京都町田市	東京都千代田区	学部学科再編により1学部制へ。現代家政学科と健康栄養学科を町田キャンパスから千代田三番町キャンパスへ移転。町田には3学科(生活デザイン学科、児童学科、人間福祉学科)が残る。
	青山学院大学	機能分化型	2012	神奈川県相模原市	東京都渋谷区	人文・社会科学系7学部(文学部、教育人間科学部、経済学部、法学部、経営学部、国際政治経済学部、総合文化政策学部)の1・2年を相模原キャンパスから青山キャンパスに集約し全学年一貫で学ぶ体制に。相模原には理工系2学部(理工学部、社会情報学部)が学ぶ就学キャンパス再配置を計画。
	武蔵野大学	進出型・機能分化型	2012	東京都西東京市	東京都江東区	有明キャンパスを新設し、文学部英語・英米文学科、政治経済学部政治経済学科、人間関係学部人間関係学科を武蔵野キャンパスから移転。環境学部環境学科を新設。
	東京電機大学	進出型・機能分化型	2012	東京都千代田区	東京都足立区	北千住駅東口に東京千住キャンパスを開設し、神田キャンパスから工学部、未来科学部、大学院(工業研究科、未来科学研究科)を移転。
	東京歯科大学	回帰型	2012	千葉県千葉市	東京都千代田区	創立120周年記念事業として、現在の千葉キャンパスから、建学の地である水道橋へ、大学機能の全面移転計画が進行中。2012年4月より段階的に移転開始。
	早稲田大学	進出型・機能分化型	2012	東京都新宿区	東京都中野区	地域住民の生涯教育、日本人学生と留学生の交流拠点として、中野キャンパスを開設予定。留学生を含む学生900人を収容する学生寮「国際コミュニティプラザ(仮称)」を設置予定。
	帝京平成大学	進出型・機能分化型	2013	千葉県市原市	東京都中野区	千葉キャンパスから中野キャンパスに薬学部を全面移転。
	東京理科大学	進出型・機能分化型	2013	東京都新宿区	東京都葛飾区	JR常磐線金町駅に新キャンパス「葛飾キャンパス」を開設、理学部と工学部の一部学科の全学年、基礎工学部(2・4年)を移転予定。
	実践女子大学	回帰型・機能分化型	2014	東京都日野市	東京都渋谷区	文系学部(文学部・人間社会学部)を日野キャンパスから渋谷キャンパスに全面移転。日野キャンパスには理系学部(生活科学部)を残し、2拠点化をはかる。
	東京工芸大学	回帰型・機能分化型	2014	神奈川県厚木市	東京都中野区	2009年から中野キャンパスを全面的に整備。中野をメディア芸術の拠点とし、芸術学部の3・4年と大学院芸術学研究生を中野キャンパスに集約。厚木キャンパスは工学部の全学年、大学院工学研究科生、芸術学部の1・2年が利用する。
明治大学	進出型・機能分化型	未定	東京都杉並区	東京都中野区	中野キャンパスを開設し、和泉にある国際日本学部を中野に移転。さらに中野に新学部を設置予定。和泉キャンパスには1年次の全学部生が学ぶ教養系学部を新設。	
中部圏	愛知大学	進出型・機能分化型	2012	愛知県豊橋市	愛知県名古屋市	新・名古屋キャンパス(ささしま)を開設。旧名古屋校舎から法学部(1・2年)、経営学部、現代中国学部、車道校舎から法学部(3・4年)、豊橋校舎から経済学部、国際コミュニケーション学部を移転予定。豊橋校舎には現在社会学部を新設予定。
関西圏	大阪成蹊大学	回帰型	2012	京都府長岡京市	大阪府大阪市	京都の長岡京キャンパスにある芸術学部を、同大の本拠地「相川キャンパス」に移転する。相川キャンパスには現代経営情報学部、大阪成蹊女子高等学校、大阪成蹊短期大学もあり、一貫教育の拠点とする。
	佛教大学	進出型・機能分化型	2012	京都府京都市	京都府京都市	JR二条駅前に新キャンパス「二条キャンパス」を開設。保健医療技術学部を移転し、看護学科を新設。臨床教育の拠点とする。
	同志社大学	回帰型・機能分化型	2013	京都府京田辺市	京都府京都市	文学部、法学部、経済学部、商学部、政策学部を今出川キャンパスに移転し、文系7学部を集約。京田辺キャンパスは心理学部、理工学部、文化情報学部、生命医科学部、スポーツ健康科学部の理工系5学部のキャンパスにする。

することで、一貫校として芸術・教育活動で連携を図る。また、京都の二条駅前、立命館朱雀キャンパスの隣に土地を取得し、新キャンパス開設を予定しているのが佛教大学だ。2012年に本部の紫野キャンパスから保健医療技術学部を移転、看護学科を新設し、臨床教育の拠点として活用する。

最後に同志社大学は、将来構想等により、今出川キャンパスと京田辺キャンパスの教学体制の再構築に取り組む。京都市内への回帰に向け、2010年に岩倉校地へ移転する中学

校跡地を大学が使用し、今出川の整備を進めるものだ。2キャンパスの特色を明確にし、文系学部が今出川、理系学部が京田辺で学ぶ体制とする。京田辺には、1886年の開設当初から、6学部(神・文・法・経済・商・工)が学んでいたが、1994年に工学部(2008年に理工学部)の3・4年生、2005年に文化情報学部の全学年、2008年に生命医科学部・スポーツ健康科学部の全学年を段階的に京田辺に集約してきた。一方で、2009年に神学部と社会学部の1・2年生を京田辺から今出

川に移転し、2013年には全文系学部の1・2年生を移転する。

大規模大学では、都市部に文系学部を集め、都市の立地を生かした教育を行い、郊外キャンパスに理系学部を配置し、広大な敷地を生かし研究施設を充実させる例が目立つ。創立記念事業として、将来構想等を描きながら、キャンパスの再配置と教育改革を同時進行で行う取組みは、今後も続きそうだ。

※ご回答頂いた、志願者数(一般入試と推薦入試の合計数)を募集人員(一般入試と推薦入試の合計数)で割ったもの。